

1. 「おかわりは、給食を全部食べた人がします」

- ◎ 給食の時間。真っ先におかわりをしたいがために、食器に食べ物が残っているのに、おかわりをしようとする子供がいます。すると、担任の先生は、「おかわりは、給食を全部食べた人がします」と、言うでしょう。
- ◎ ところが、この言葉に戸惑ってしまう子供がいます。おかわりをしたいのに、給食を全部食べてからでないといけないから？ ではありません。

ぼくは、給食を全部食べた。おかわりはしない。でも、給食を全部食べた人は、おかわりをしなければならないと先生は言う。おかわりをしたくないのに。どうしよう…。



食べたくないのに、おかわりをしなければならない。これでは給食の時間が苦痛になりますね。

- ◎ この場合、給食を全部食べて、おかわりをしたい人はする、したくない人はしない。そのように理解する子供が多いでしょう。でも、「おかわりをしなければならない」と理解をする子供もいるのです。

小学生段階では、こちらの意図したこととは違う捉え方をする子供が結構見られるものです。

- ◎ 同じ言葉や話を聞いても、その意味の捉え方、理解の仕方は、子供によって違ってきます（大人でも同じことが言えますが…）。子供のもともともっている個性、生活環境、これまでの経験などが影響するからです。大人は、自分の言葉や話について、「全員が同じように理解するだろう」「これくらい、わかって当然だろう」と子供のことを決めつけないようにしなくてはなりませんね。

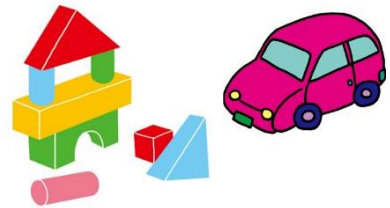


2. 「宿題が終わるまで遊べません」と 「宿題が終わったら遊べるよ」

- ◎ 「宿題が終わるまで遊べません」と「宿題が終わったら遊べるよ」。この2つの文は、ほとんど意味は同じです。しかし、この文を言われたとき、「宿題が終わったら遊べるよ」のほうが、「なんかわくわくする」「楽しみがあとで待っている」「宿題がやる気になる」などのように感じられる方が多いでしょう。
- ◎ 同じような例で、「あと30分しかない」と「あと30分もある」とでは、ほとんど意味は同じなのに、受ける印象は変わってきますよね。「あと30分しか……」では、「少ししかない」「焦る」のような印象を持ちますが、「あと30分も……」では、「まだだいぶある」「ゆったりできる」という印象をもちやすくなりますね。
- ◎ 他にもこのような例があります。言い方次第で、受け取り方や気持ちが違ってきますね。

◇ 部屋におもちゃが散らかっているとき

- ・「おもちゃを片付けなさい」
- ・「さあ、いっしょにおもちゃを片付けようか？」
- ・「使ったおもちゃ、どうするんだっけ？」



◇ テストの点数が悪くなかったとき

- ・「またこんな点数？ ちゃんと勉強しなさい」
- ・「だけど、名前がていねいに上手に書けているね」
- ・「前回よりは、点が上がったんじゃない？」

- ◎ 同じ意味内容でも、どのような言葉を使うか？ どのような言い方にするのか？ によって、聞いている人の気持ちやモチベーションが上がったり下がったりします。私たち大人は、使う言葉のセンスを高められるように、日頃からアンテナを張って、「これは使える！」という言葉をストックしていきたいですね。

今回は、言葉にまつわるお話を2つ紹介させていただきました。自分の発する言葉が相手にどのように受け止められるのか。どのように理解されるのか。どのような気持ちにさせるのか。常に心掛けながら言葉を使いたいですね。

